

より収益性と保守性の高い 生産体制を目指して、 鵜飼工場と総領工場を 統合しました。

ヤスハラケミカルでは、これまで生産効率の向上を目指し、順次 各工場の生産設備や生産体制を計画的に見直し、整備や統合を行うことで効率化を推進してきました。今回は「鵜飼工場と総領工場の統合」についてご紹介します。



取締役 生産本部本部長 栗本 倫行

■生産設備効率化向上の歩み

取り組み内容	事業年度
福山工場に化成品製造設備を新設	2016年～
新居浜工場 生産効率向上の取り組み強化	2018年～
工場間相互交流への取り組み (班長交流研修)開始	2018年～
福山工場モデル工場計画開始	2018年～
鵜飼工場 DX導入による「見える化」推進	2021年～
鵜飼工場と総領工場 生産設備統合と効率化	2022年～

生産設備の効率性向上の狙いと概要

生産本部では、生産効率を高め、収益性の向上を目的として、計画的に生産設備の合理化や整備、事業拠点の統合等を進めて参りました。

今回の鵜飼工場と総領工場の統合は、これまでの取り組みの中でも、2016年に実施した福山工場と高木工場の統合に次ぐ規模であり、大きな取り組みとしては当面の仕上げとも言えるプロジェクトです。

当該両工場は生産効率が悪く、長年収益が上がらない状態となっていました。

しかし、技術二部が画期的な混合技術を見出した事で、生産効率が飛躍的に向上する事の確認ができ、それによって、投資費用も大幅に抑制する事が可能となり、統合を実施するに至りました。

統合の検討開始から設備完成までの間、携わった全てのスタッフには多くの苦労と努力が伴いました。しかし、これら経験と獲得した混合技術、そして統合による収益の改善は、当事業に従事する全社員の自信や誇りとなり、将来、当社の大きな財産となって、更に大きな成果をもたらすに違いないと感じております。

プロジェクトの推進とスキルアップ効果

一般的には、工場統合等の大規模投資を行う場合、専門のプラントエンジニア会社に発注し、その設計・施工管理のもとに進めます。しかし、今回のプロジェクトではプラントエンジニア会社を頼らず、設計と施工管理は全て自社で行いました。

その狙いは、社員のスキルアップとコストの削減にありました。各作業員は通常業務に関しては熟練の技を持っていますが、設備設計などの経験はありません。

こうした新しい取り組みにチャレンジする事で、各自が作業方法を見直し、より合理的な方法を見出したり、多くの事を想定したりする良い機会になると感じました。

その結果、設計会社や装置メーカー・電気設備会社など外部との個別交渉や管理といった、普段は行わない仕事は刺激となり、目的とした想定能力の向上、合理的思考の向上、コストの削減につながったと考えます。

生産本部の今後の取り組み

この10年弱の間、事業拠点の統合や生産設備の合理化を推進してきた事で、生産部門のハード面に関しては、ほぼ完成形に近いものとなりました。今後はソフト面を一層充実させ、「より快適に、より安全に、より効率的に」を目指せばと考えます。

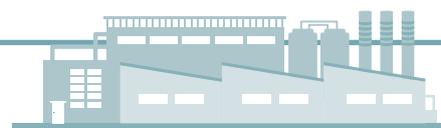
また、数年前から班長交流会などで工場間の相互交流を活性化させています。

この取り組みにより、各工場が独自に築いてきた安全管理や効率化等のノウハウが全社展開され、安全・品質面におい

て、一定の効果が見られ始めています。

また、安全や防災の質を高めるために、本年度より、全工場に業務防災課を設置致しました。この部署の役割は、工場内の安全・防災を大局的視点で捉え、その支援や指導を進める事を目的としています。

これらの活動を通じ、顧客満足度の向上と安全性の高い生産体制の構築を目指し、健全な事業活動が継続的にいえるよう、生産本部一丸となり、進めて参りたいと考えます。



■工場統合の背景

鵜飼工場では、ホットメルト接着剤やラミネートフィルムを生産していますが、ゴム系やオレフィン系で多くの手作業を必要とするため、処理量が限られ収益性に課題がありました。またラミネートはニーズの減少から生産量も減っているという状況でした。一方、総領工場の生産効率は高いものの、建物や設備の老朽化が進んでいたため、更新の必要性がありました。

さらに、生産拠点が分かれていることで、業務や電力等インフラ設備の重複、両工場間での製品の移動などの課題がありました。

■工場統合プロジェクトの経緯

2016年から技術検討が始まり、2020年に技術二部で、新たな製造技術が確立できたことにより、ひとつの装置で製造できる製品が広がったことから、2021年から工場統合プロジェクトを本格的に始めました。

そして、2022年夏に1次工事を、2023年初頭にかけて2次工事を行い、2023年3月から稼働を開始しました。

■工場統合プロジェクトの効果

工場統合後は、一つの工場でこれまでの2工場分の生産量を確保することが可能となった事に加え、設備自体の生産効率が高く、電力等のコストを大幅に削減することが期待できます。

また、この統合プロジェクトを社内で行ったことから、社員は慣れない調整作業で苦労したようですが、結果的には自分たちが立ち上げた製造ラインだから愛着も理解も深まっています。今後トラブルや調整事項が発生した際にも、対応がよりスムーズになると期待しています。



鵜飼工場 工場長 藤田 耕三

■ホットメルト接着剤の主な用途

- 食品容器のイーピール
- 粘着式ローラー
- 段ボール箱等の接着



鵜飼工場と総領工場 統合のポイント

- ①ホットメルト接着剤・ラミネートフィルムの生産設備を鵜飼工場に集約
- ②製造ラインの計画から設置まで外部に頼らず社内主体で推進
- ③生産設備の効率化を進め、統合してもこれまでと同量を生産可能に
- ④製造ラインを統合することでスペースの削減も可能に
- ⑤作業人数や電力使用料等の削減によるコストダウンも同時に